

巻 頭 言

人間発達学部学部長
澁 澤 透

人間発達学部子ども教育学科が2010年に設置されて6年が経過しました。設置以来、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の養成に取り組み、毎年、卒業生の約3分の2が、宮崎県を中心に現場に巣立っています。2013年に認可された特別支援学校教諭の養成課程も今年2月に観察実習を終え、来年度は本実習を実施することになります。

本学部開設の前後から、教育改革の焦点として教員養成のあり方が問われていて、すでに制度改革の方向性も打ち出されています。今のところ本格的な具体化には至っていませんが、教職の専門性や教師の実践力の向上などが焦点的な課題となっており、「学び続ける教師像」「反省的实践家としての教師像」などの教師像が提起されています。

南九州大学は、もともと園芸・造園系の単科大学として開学され、農業高校を中心に教員を送り出してきた実績があり、実験・実習重視の教育の伝統が蓄積されてきました。本学部はその蓄積を踏まえて、実習重視の観点を保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の養成に生かすことを目指して開設されました。

教員養成制度改革の議論においては、教職大学院を含めて制度構想が練られています。本学部は、地方の小規模の私立大学が学部教育として何ができるかという視点から構想されています。

本学部の学部教育は、大きく《実習》領域と《専門教育》領域の二つに分けることができます。

《実習》は、狭義には保育実習・教育実習であり、広義には子ども支援のボランティア活動や地域活動をも含んでいます。前者においては、「連携学校園方式」という本学独自の方式を採用し、2年次の観察実習を経て、3年次には半年間毎月実習校を訪問し指導を受けた後、本格的な実習に入ることになります。この狭義の実習をサポートする活動として、1年次から始まる広義の実習、つまり様々なボランティア活動が用意されています。実習を経験し、実習の中で考え、実習を振り返ることで、実践的な思考力や実践的見識を高めていこうとしています。

《専門教育》は、「子どもの心身」「子どもと地域」「子どもと自然」という3つの柱から成り、食・緑・人に関わる専門家を育成するという大学の教育研究理念の下で「人の育ちと地域の育ちを支援する」という本学部の目標を実現するためのカリキュラム構成になっています。

この《実習》領域と《専門教育》領域とをつなぐ場として、また多領域に亘って習得する知識を統合する場として、1年次からゼミが開講されています。1・2年次のゼミでは、大学生活の送り方や科目履修の方法から、問題関心の喚起、研究方法に至るまで取り扱い、様々な実習や講義の中で興味を持ったことなどを出し合い話し合います。基礎的知識の統合、実践と理論の結合、実習の反省の場として位置づけられているのです。

こうした学部教育を充実させるためには、教員の相互理解や課題の共有が不可欠です。本年報が、本学部の1年間の研究教育の報告であると同時に、教員間の交流を促すものとなることを期待しています。